

「Harmony」では、大原綜合病院と連携していただいている医療機関をご紹介します。  
今回は当院と連携介護機関と契約をしている、聖・オリーブの郷のご紹介をします。

～地域に密着した介護施設を多数展開、これからの地域包括ケアシステムを担う事業所～

## 介護老人保健施設 聖・オリーブの郷（本館・東館）

### —多数の施設を展開していますが、連携や情報共有を工夫している点をお聞かせください—

情報共有については、平成 19 年頃から積極的  
に取り組むようになりました。特に、現場職員まで  
共有できるようにしたいと思い、まずは、全職員  
（職種）対象に「朝礼」を開始しました。その後、  
午後の時間に利用者共有の会議を行い、利用者の  
状態に関する情報共有を図っています。それでも  
全員参加は困難なので、議事録を作成し全部署に  
配布しています。勿論、職員のみならず、委託の  
運転手や清掃業者にも同様に配布します。各委員  
会も多職種で形成し目的に沿って運営しています。管理者以外の一般職員が委員長になる事も当然あります。やる気のある職員が力を発揮できるよう、積極的に登用しています。その中で、全員が情報共有の必要性を認識していただいています。



### —職員さんの挨拶やおもてなしが、素晴らしいと感じておりました。接遇はどのように取り組んでいますか—

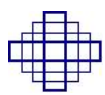
創世会グループ全体として接遇委員会があり、普段の身だしなみや対応方法等のマニュアルがあります。それを全施設で取り組み、毎日チェックしています。接遇は毎日の繰り返しですので、継続的に取り組む事が必要です。誰がやるのではなく、私達を含め職員全員が模範であり、来院した方だけではなく、職員も気持ちよくなるよう意識をしています。



### —慢性的な介護職不足の中、人材の獲得はどのように行っていますか—

職員採用も重要ですが、退職せずに働き続けることの方が重要です。特に、福利厚生の実施や職員満足に取り組んでおり、保育園や幼稚園に預けている職員には、保育料相当分を家族手当とは別途に正職員、パート職員の区別なく一定額を補助しています。医療介護の現場は、女性が働きやすい環境を作ることです。一方、思い描いている介護と就職してからの現実には、ギャップが生じます。そのための工夫として、体験入職という形で数週間働いてその間に決めていただくこともあります。他には、資格取得のための支援制度も整備しています。

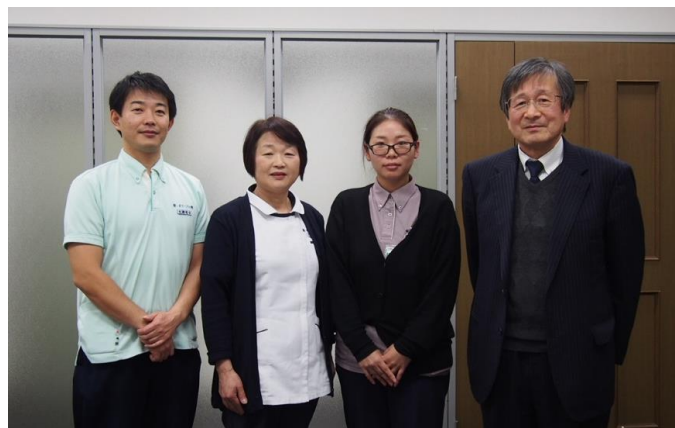




例えば、パート職員でも介護福祉士の受験資格が取得できるようにサポートをしています。

現在、介護福祉士の取得者は全体の 65%に達しており、これも取得支援制度のおかげです。

働き方も多様な雇用形態を敷いており、子育てや家庭の事情がある職員には、なるべく個人の希望に沿った形で勤務体制を敷いています。実際、正規職員のみでフル勤務というのは年々困難な状況になってきています。限られた職員数の中で、いかにして楽しく達成感を持って仕事ができるかをこれからも考えてゆきたいと思います。



半澤 和幸さん（業務係長兼介護主任）、平塚 千鶴子さん（副施設長・看護師長）、久間木 美幹子さん（副主任・支援相談員）、菅野 重雄さん（事務部長） ※左から

— 一回は、介護老人保健施設の現状、大原綜合病院との連携（合同会議）についてです —

## 平成 27 年 大原綜合病院 新年会を開催



平成 27 年 1 月 9 日（金）18 : 30 から、平成 27 年一般財団法人 大原綜合病院 新年会が開催され院内外合わせて約 330 名が参加しました。

初めに、平子健 理事長より年頭挨拶があり、続いて佐藤勝彦 副理事長兼統括院長より挨拶が述べられました。次に来賓の方からご祝辞をいただき、祝電披露、職員表彰、未年の職員による鏡開きが行われました。会では、瀬上太鼓保存会の皆様による太鼓の競演、宝くじ抽選会が行われ盛会裏に終了しました。

